

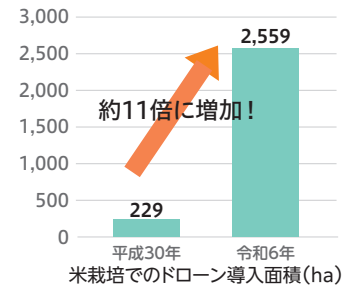
主な取り組み

先端技術の活用による生産性向上

県では、ICT(情報通信技術)やドローンなどの先端技術を活用した「スマート農林業」を推進し、作業を自動化・省力化・効率化することで、生産性の向上を図っています。

ドローンを活用した農薬散布

病害虫などから作物を守るため、重いホースを引きながら、長い時間をかけて広大な農地を歩いて行う農薬散布は農家にとって大きな負担となっていました。米や露地野菜を中心にドローンの活用を推進した結果、作業時間は大幅に短縮され、導入面積は年々増加しています。また、急傾斜地で栽培されるびわやみかんなどの果樹栽培においても、令和6年度から生産者やJAなどと連携し、ドローンの実証を行うなど、活用拡大に向けた取り組みを進めています。



ドローン防除に取り組むみかん農家の声
野田 真吾さん<大村市>

ドローンを活用することで作業を省力化し、他の管理作業への時間配分ができるようになります。これからも、県やJAと力を合わせてみかん栽培でのドローン防除を拡大し、作業負担を軽減することで、経営継続や規模拡大などにつながるよう取り組んでいきます。

<果樹栽培での農薬散布>



従来

ドローンの活用

林業分野での作業の省力化

林業では、山に植えた木を健やかに育てるために草刈りが欠かせませんが、草が繁茂する夏場に急斜面で重い草刈機を持って長時間作業することは重労働であり、林業従事者にとって大きな負担となっていました。県では、この作業の省力化を図るため、リモコンによる遠隔操作が可能な草刈機の導入試験を行っています。試験によって得られた成果や課題を検証しながら、県下全域への展開を図っていきます。



実証試験の様子

新しいチャレンジによる産地振興

長崎県内各地でさまざまな農業が営まれている中、人口減少や高齢化などにより、産地の維持が困難な状況になっています。そのような中、県では、これまでにない新たな取り組みへの挑戦を支援し、産地の振興を図っています。

肉用牛の一貫経営

肉用牛の一貫経営とは、子牛を生産する「繁殖経営」と、子牛を成牛に育てる「肥育経営」を一体化して行う経営形態で、コスト削減や収益の安定化が図られます。県では、全国でも有数の本県肉用牛産地のさらなる振興に向け、令和5年からこの一貫経営を推進しています。



一貫経営に取り組む農家の声
山口 伸太郎さん<五島市>

繁殖から肥育、販売まで自らの手で取り組むことで品質を高め、五島の肉用牛のブランド価値を向上させたいという思いから一貫経営を始めました。高品質な肉用牛を育てるためには、牛にとって快適な環境をつくるのがとても大切ですので、牛舎の清潔さや温度管理に気を付けながら、一頭一頭大切に育てています。

県オリジナルばれいしょの産地化

県が品種開発したばれいしょ「ながさき黄金(こがね)」は高い糖度とホクホクとした食感が大きな特徴です。杵岐では生産された中で高品質なものを「杵岐黄金®」として出荷し、他産地との差別化を図っています。



杵岐黄金®



杵岐黄金®を栽培する農家の皆さん
JA杵岐市ばれいしょ部会<杵岐市>

杵岐ではばれいしょを栽培してきた歴史がなく、栽培ノウハウがありませんでしたが、JAや杵岐振興局の指導により、栽培技術の向上や産地面積の拡大が進んでいます。一定の基準を満たした生産物だけを「杵岐黄金®」として出荷し、高単価取引やブランドの確立につなげています。

県政 特集

長崎県の農林業

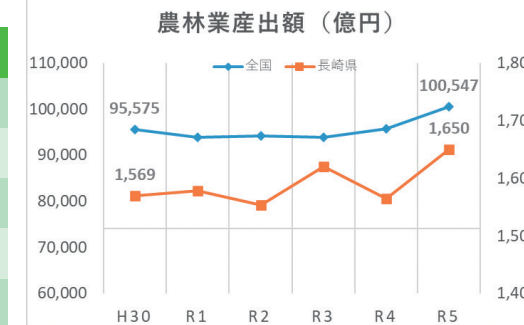
離島や半島が多い本県において、農林業は地域を支える重要な基幹産業です。

このため県では、次代につなげる活力ある農林業産地の振興と農山村集落の維持・活性化に向けて、さまざまな取り組みを進めています。



■主な農産物の産出額(令和5年)

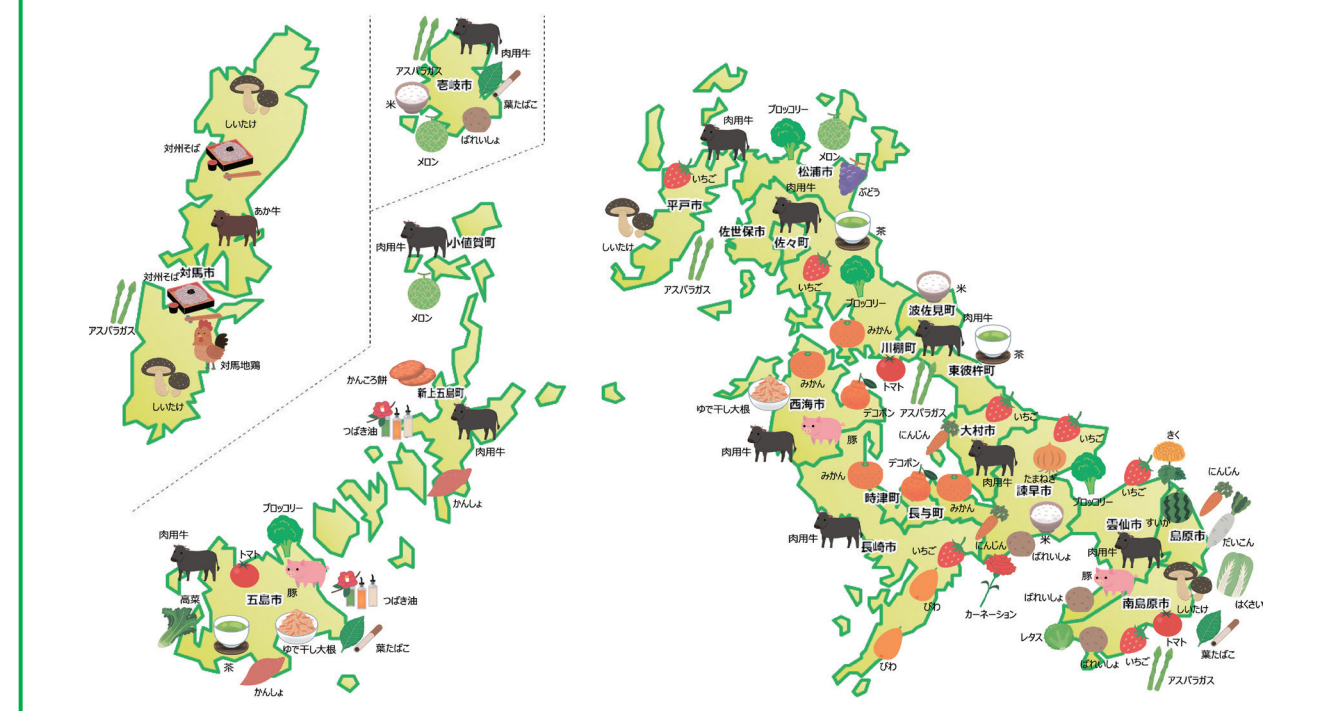
品目名	産出額	全国順位
びわ	9億円	1位
ばれいしょ	115億円	2位
いちご	127億円	4位
みかん	105億円	6位
肉用牛	250億円	7位



本県の令和5年の農林業産出額は1,650億円でした。全国と同様、増加傾向にあります。また、本県では全国1位のびわをはじめ、2位のばれいしょ、4位のいちごなど、多くの農産物が全国トップクラスの産出額を誇っています。

本県の農林業産出額

地域の特性を生かした多様な産地



今後の取り組み

県では、令和8年度から令和12年度までの5年間の農林業施策の方向性を示す「第4期ながさき農林業・農山村活性化計画」を策定し、以下の3つの柱で取り組みを進めていきます。

担い手対策 意欲あふれる経営力の高い担い手の確保・育成

目指す姿

県内の儲かる農業者を見て、憧れ、革新的な農業に挑戦する若者が産地に集い、将来にわたり活躍

【主な取り組み内容】

次代を担う農業人材の確保・育成

新規就農相談センターによるワンストップ相談窓口体制の強化や産地自らが新規就農希望者を呼び込む取り組みの強化など、新規就農者が安心して就農できる環境づくりを推進します。



新規就農者の研修

儲かる農業経営体の育成

経営規模の拡大や個々の経営の強化を図り、認定農業者などの所得向上を推進します。また、外国人材の活用や農業支援サービスによる労働力確保対策を推進します。



就農相談会

産地対策 生産性の高い足腰が強く活力ある産地の形成

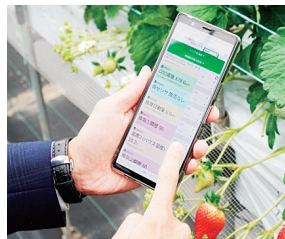
目指す姿

気候変動などの環境の変化に対応し、生産性を高め、安定的かつ高品質な農産物の生産により、収益性の高い儲かる産地を形成

【主な取り組み内容】

環境変化に強く生産性の高い産地づくり

スマート技術導入による生産性向上、近年の気候変動に対応した品種・技術導入、農業のグリーン化など、各品目に応じた施策を展開します。



いちごの環境制御技術

高生産を支える生産基盤の整備

農地の基盤整備や老朽化の進む農産物集出荷施設の再編整備、輸出拡大の産地育成などを推進し、収益向上を図ります。

林業では、スマート林業技術などによる森林整備を推進し、生産性の向上につなげます。



再編整備後の集出荷施設

集落対策 賑わいのある安全・安心な暮らしやすい集落づくり

目指す姿

集落の資源や機能が適正に維持され、安全・安心な暮らしやすい集落地域ビジネスの拡大により、集落全体で所得が向上

【主な取り組み内容】

集落機能の発揮に必要な資源保全活動の展開

集落人口の減少・高齢化に対応し、集落活動を維持していくため、地域内外の多様な人材活用による、草刈りや水路管理などの作業のアウトソーシング化などに取り組みます。



棚田の風景

集落全体の所得を向上させる地域ビジネスの拡大

地域活性化の拠点となる農産物直売所や農泊などの取り組みについて、魅力ある産品づくりや、教育旅行・インバウンドなどの受入体制を強化するなど、交流人口の増加を推進します。

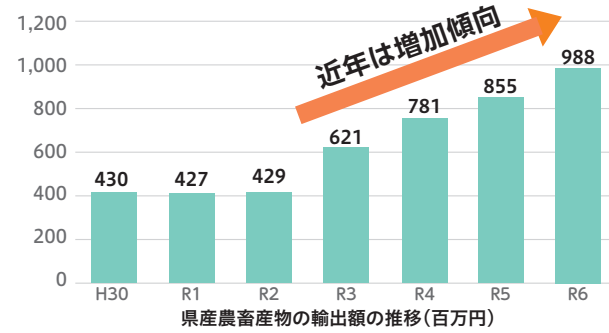


農泊でのみかん収穫体験

県産農畜産物の輸出拡大

輸出拡大に向けた海外でのPR活動

現地の商社やメディア、消費者などに本県農畜産物の魅力を直接PRすることで、認知度向上や新たな需要の創出につなげています。



タイでの長崎和牛プロモーション



シンガポールでのいちご・みかんフェア

農地の基盤整備

農地の基盤整備とは、小さな田や畑、未利用の農地などを大きくまとめ、農業生産環境を改善することです。県では、農地の基盤整備を推進し、規模拡大や農作業の効率化・省力化など、収益性の高い農業経営の実現を図っています。

また、こうした基盤整備は、若い就農者や後継者が増え、地域の子どもの数が増えるなど、地域全体の活性化にもつながります。

<桃山田地区(雲仙市)の基盤整備>



整備前



整備後

平成29年度から行っている基盤整備により、農地の集約化や規模拡大が進み、大型機械の導入による生産コストや労力の低減や、後継者の確保につながっています。



乗用収穫機によるばれいしょ収穫



基盤整備地の農家の声
町田 一久さん<雲仙市>

基盤整備後は、大型機械の導入により作業の省力化が図られたことで、休みや趣味の時間が増えました。また、子どもが農業を継いでくれることになり、後継者の確保にもつながっています。若手農家たちも、積極的にドローン防除に取り組むようになるなど、新たなチャレンジができる環境となり、地域の活性化につながったと感じています。

これからの本県農林業の課題

これまでの取り組みにより農林業産出額が順調に増加する一方、本県の農林業は、

- ◆ 農林業の担い手の減少・高齢化による産地の縮小
- ◆ 肥料代など生産コストの増加や気候変動による生産量の減少
- ◆ 集落人口の減少により農山村地域が持つ多様な機能の維持が困難

などの課題を抱えています。

本県の農林業・農山村が将来にわたり維持・発展するために

『快適で儲かる農林業・快適で暮らしやすい農山村の実現』を目指し、さらなる取り組みを進めていく必要があります。